

杏林大学医学部付属病院・施設見学レポート

1. 概要

- ①日時 : 平成25年9月2日(月) 14:00~16:00
 ②場所 : 杏林大学医学部付属病院
 ③現地視察委員 : 塩崎名古屋大学病院事務部長、山下工学院大学教授
 (文科省) 長坂技術参事官、笠原整備計画室長、中西室長補佐、板野係長
 ④現地視察ルート : 病院内
 (病棟部門) ナースステーション、病室、医療スタッフ休憩室
 (外来診療部門) 外来ホール
 (中央診療部門) 手術室、ICU、検査部

2. 基本情報(平成24年度実績)

	杏林大学
①病床数	1,153床
②手術件数	11,683件/年
③診療科数	31科
④外来患者数	一般2,190.4人/日 救急97.0人/日
⑤入院患者数	新規入院患者60.7人/日 延べ892.0人/日
⑥病床稼働率	84.8%
⑦平均在院日数	12.6日

3. 杏林大学の取組、課題

部門	取組
組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ○病院再開発計画立案に当たって、担当委員長を筆頭にした委員会を定期開催 ○最終的な意思決定は理事長が実施し、医療スタッフへコンセプトを周知徹底 ○病院管理部長などが毎日施設内を巡回し、各セクションの状況を日常的に把握
設計条件	<ul style="list-style-type: none"> ○一日2,000人以上が来院する外来に自動支払機や情報システムの導入により支払までの患者待ち時間を5分以内を目標に改善し、待合スペースをコンパクトに計画 ○医療スタッフの休憩室や仮眠室など診療科ごとに整備 ○ナースステーションに隣接する場所に学生や看護師の学習・意見交換が可能なミーティングスペースを整備 ○集中治療室は、患者の状況に応じた役割を明確化して、救急救命センターICU、中央ICU(CICU)、Surgical ICU(SICU)、Stroke Care Unit(SCU)、HCUなどに区分して設置。(合計109床) ○手術部の材料準備等は手術部の中心にスペースを整備し、外注によるSPDを効率的に導入
建築的工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○増築や改修により複雑化したホスピタルストリートは、動線が直線となるよう見直し、患者・医療スタッフ双方にとってわかりやすく負担の軽減になるよう計画 ○ICU等での治癒を早める工夫として、部屋は外壁面に設け患者が直接屋外を見られるよう計画 ○外科病棟、内科主体の病棟の4人部屋のWCは、室の扉よりも廊下側に配置し、看護師がいつも視認できるように計画。また高齢診療科や脳卒中科などでは、病室内の排便に伴う臭気対策として排気装置を各ベッドに設置し、患者・看護師双方の環境を改善 ○CICUは、外周に廊下を配置することで患者家族と医療スタッフの動線が交わることのないように工夫 ○手術室内の電源供給を天井面から計画
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての診療科にカンファレンスルームを設置し、流動的な利用となるよう講義や他の診療科が利用できるよう計画 ○ME機器等は、各診療科に必要な機器のみを整然と配置 ○特定入院患者に用いる医薬品・診療材料のセットは、オーダーシステムを用い、患者ごとにSPDが使用前日にナースステーションに配置している。診療科ごとの定数の医薬品・診療材料は、SPDが3日分を同ステーションに定数配置